

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2971000258		
法人名	社会福祉法人 蒼隆会		
事業所名	グループホーム すばる		
所在地	奈良県香芝市鎌田157-1		
自己評価作成日	平成29年6月3日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

二上山の麓に位置し、周りに田園風景が広がる場所に私たちのグループホームすばるはあります。広い敷地内に特別養護老人ホーム、デイサービス、ショートステイ、訪問介護、居宅介護支援事業所を併設しています。平屋建てで各居室の扉を開けていただくと、共用スペースがあり、他のご利用者や職員の笑顔を見ることが出来ます。ホームの西側には花壇が広がり、南側には畑をしており、収穫できたお野菜は日々の献立に並べることがあります。1日の過ごし方は皆さんそれぞれ違いますが、時間になると自然と皆さんがリビングに集まる、そんなホームです。ご利用者にとっての「家」であり、落ち着いた雰囲気、家庭らしさをそねない様に言葉掛けや関わりをするように心掛けています。ホームのモットーである、「笑顔」で過ごせるように毎日、支援させていただいています。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをhi

基本情報リンク先 www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyoSyCd=2971000258-00&PrefCd=29&Vers

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当法人が運営する総合福祉施設の敷地内に開設された当グループホームは、「利用者本位のサービスの提供」と「地域や家庭との連携を大切にする」という法人理念を継承している。理念は管理者始め全職員に浸透しており、「みんなが毎日笑顔で過ごす家 すばる」をモットーとして、グループホームが持つ本来の目的を日々の支援のなかで実践している。利用者は買い物を担当する人、料理の下ごしらえをする人、得意な毛筆で額を書く人などそれぞれが有する能力を発揮する機会があり、生活を実感しながらゆったりと暮らしている。管理者は職員の意見に耳を傾け、カロリー制限のある人のためにこんにやく入りご飯にしたり、テーブルやソファを動きやすいように配置換えしたり、大きな浴槽に利用者の安全と職員の負担軽減のため特製のすのこを置いたりと改善に努めており、職員は管理者を信頼し、充実感を持って穏やかな気持ちで利用者を支援している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット		
所在地	奈良市登大路町36番地 大和ビル3階		
訪問調査日	平成29年6月21日		

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	前回の外部評価で、アドバイスを頂き、グループホームとしての合言葉を考えるようになりました。	法人全体の共通理念は職員によく浸透しているが、皆で話し合い、事業所のモットー「みんなが毎日笑顔で過ごす家 すばる」を作り、書道が得意な利用者に墨書してもらい、玄関に掲げている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に出掛けたり、見学させていただいています。	地域の秋祭りには「だんじり」が事業所前まで繰り出してくれたり、定期的に幼稚園児の訪問をうけ歌や遊戯で利用者を楽しませてもらっている。喫茶や演芸、庭の手入れなど大勢のボランティア活動も受け入れている。近隣のスーパーの店員と顔馴染みになるなど、地域に根を張った事業所である。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	不十分ですが、運営推進会議でホームの事をお伝えしたり、地域のボランティアの方が開いて下さる行事にご利用者や職員とともに参加させていただくようにしています。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、ホームの現状やご利用者の状態を伝えています。会議の後は、グループホームへ会議内容を伝えるようにしています。	年6回開催の運営推進会議には家族代表、自治会長、市担当者、地域包括支援センター職員、民生委員、第三者委員などが参加している。会議では活動報告や利用者状況、今後の予定、事故報告などを行うと共に、業務改善への取り組みも議題として取り上げている。	家族には会議への出席要請をしているが、出席者が限定されており、出来るだけ多くの家族の参加を得る為には、開催日を事業所行事や勉強会に合わせたり、会議の議事録を送付するなど家族に関心をもってもらえるような取り組みが望まれる。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月毎に開催されている、香芝市の地域密着事業所会議で市町村担当者と連絡・報告するようになっています。	市担当職員とは認定更新時や事故の報告などで連絡を密にしている。また2ヶ月に1度、地域密着事業所会議に出席し、市担当者や他の事業所と話し合いをし、「すばる」の取り組みや現状の報告もした。昨年管理者は、市主催の「認知症地域推進人材、チームづくり研修」を受講した。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は今まで行ったことが無く、今後も行わない方針です。	身体拘束をしないケアの認識が職員に浸透しており、会議のなかでも折に触れ話されている。日中玄関は施錠されておらず、居室の掃き出し窓も自由に出入れる状態である。利用者は束縛されず、思うように自由な日常を過ごしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホーム会議では参考書意を用いて話し合いをするようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を学ぶ機会を設けることが出来ていません。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の時には丁寧に行うように心掛けています。不明なことがないか、適宜お聞きし、納得頂けるよう努めています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議ではご家族様から要望や意見をお聞きするようにはしていますが、あまり意見をおっしゃられないため、普段の面会時などお話を伺うようにしたいと思えます。	家族の面会は多く、面会時に家族の意見や要望を聴いている。家族からはよく対応していると評価が高い。毎日入浴がしたい、散歩は一人で行きたいなど思いや要望の言える利用者が今は多いので、出来る限り要望に沿った支援に努めている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議において、出席する職員からの意見やアドバイスなど伺うようにしていますが、不十分だと感じます。	業務をこなしながら話し合うことが多いが、変更する事項は申し送り帳に記録し、職員全員が確認し、共通認識としている。全職員参加によるホーム会議も開催されている。管理者は職員の意見をよく受け止め、改善に努めており、職員からは職場に来るのが楽しい、大事にしてくれている、温かいなどの声が聞かれた。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤怠管理には注意していますが、もっとやりがいを感じれる職場づくりをしたいと思えます。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、動きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会があれば、参加していただきたいと思っています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	香芝市内のグループホームが集まり、年に1回、行事を行うことはありますが、ネットワークづくりや勉強会は出来ていません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談の時などご利用者の状態の把握、要望や気持ちをお聞きするようにしています。入居前にはお試し宿泊の実施も行っています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様からは入居申し込みの際に、困っておられることや入居に関しての疑問等伺い、入居後の生活に関する要望等もお聞きするようにしています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの導入のタイミングが正しいかどうか、自信はありません。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者と職員は「共に生活をしている」という関係づくりを心掛けています。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が面会にお越しくださった時には、ご利用者の様子を伝え、ご家族様とともにご利用者を支えさせて頂こうと心掛けています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	防犯上夜間の施錠をしていますが、日中はどなたでもお越しいただけます。	馴染みの関係など利用開始前の面談で聴き取りフェスシートに記録し、開始後は日常会話から情報を得ている。散歩途中に自宅に寄ったり、通院付添い時に自宅近くに寄り道したり、以前利用した他の施設職員が訪れるなど、これまでの生活につながり自然体でホームの生活に馴染めるように努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の支え合いも見られるようになりました。職員もどこに居られても見守れるよう支援させて頂いています。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームから退所された後もご家族様やご利用者と途切れないように努めたいと思います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居の際には、ご本人の希望や生活の目標など伺うようにしています。	利用開始前には自宅を訪問し聴取した生活に対する意向、生活歴、病歴、特技、趣味などをフェイスシートに記録し、お試し宿泊を実施して、利用者の全体像を職員と共有している。利用後は担当職員が個人記録に気づきや変化、状態を追記し、介護計画に活かしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様からもご利用者からも今までの生活・暮らし方など伺うようにしています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の情報を元に入居後もご利用者の心身の状態の観察に努めるようにしています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	まだまだ不十分ですが、作成しています。	お試し宿泊の様子やフェイスシート、個人記録、グループホーム日誌を参考に介護計画を立て、グループホーム会議で話し合いがされている。日誌や会議録は利用者の状態や気づき、意見などを色違いのボールペンで記載し、個別ケアの確認や6ヶ月毎の計画見直し時の情報としている。	介護計画書の各項目の目標について評価を行い、結果を次の介護計画につなげる取組みが望まれる。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は職員が細かに記録し、気づきの共有に努めています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り、ご利用者の希望に沿った支援が出来るようにしたいと思います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用は、不十分です。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診は入居後も継続できますが、ご希望があれば、法人嘱託医へのかかりつけ医の変更もお受けしています。	以前からのかかりつけ医から事業所の協力医師をかかりつけ医に変える方が多い。月に2回内科医の訪問診療があり、歯科は連絡すると往診してもらえる。通院は原則家族が付き添いするが、職員が同行することもある。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師の導入は出来ておらず、かかりつけ医の指示により適切にスムーズに受診が出来るよう配慮しています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には適宜訪問し、病院の医療相談員・看護師とご利用者の状態をお聞きし、早期退院に向けて相談させていただいています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	未だ重度化されたケースがありませんが、ホームでの最期を希望されている方もおられる為、早期に体制作りをしなければならないと考えています。	利用者が重度化した時、これまでは病院や隣接の特別養護老人ホームで受け入れてもらい、事業所での看取りケアは行っていない。看取りのケアについて、本人や家族からも要望が出ており、協力医も現在前向きな考えを持っており、事業所としても早期に看取りケアの体制づくりが必要と感じている。	看取りに関する事業所の方針を定め、関係書類の整備を行い、家族、医師、訪問看護ステーション、事業所が連携できる体制づくりと共に、職員に対する看取りケアの精神面などの研修計画づくりに取り組まれることを期待する。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	不十分であると感じます。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との連絡体制は築いています。	隣接の特別養護老人ホームと合同で年2回、利用者も参加しての避難訓練を実施している。非常時には、隣接の特別養護老人ホームからの支援も得られる体制があり、地域の自警団と協定を結び協力体制を築いている。各居室は掃き出し窓で、すぐに屋外にでられる構造になっている。隣接の地域交流センターは災害時の要介護者の避難所に指定されており、3日分の飲料水や食糧の備蓄がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者への言葉掛けや対応には、注意を払って行うようにしています。	職員は、利用者を尊重した言葉かけや介助を当然のこととして自然体で対応している。排泄誘導時は声のトーンを下げた言葉かけで行っている。職員間では小便是ハルン、大便はコートで話している。入職時研修以外研修の機会は特になく、会議で注意を促すくらいで日常のケアの中で職員の言動に違和感を感じることはない。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	状態の把握に努め、まずはご本人の意向を伺い、決定できるように心掛けています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者が思い思いの生活が出来るように、心掛けています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の時にはお化粧をしたり、お気に入りの洋服を着て頂いたり、日々の洋服もそれぞれで選んで来ておられます。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に行うようにしています。	主菜は特別養護老人ホームの厨房で調理し、ご飯と汁物は職員が作っている。週2回の昼食は、メニュー、買い出し、準備、調理、片付けを利用者と一緒に行い、職員も同じ食事をしている。月に1度は刻み食やペースト食に対応してくれるレストランへ外食に出かけている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量の把握に努め、少ない方には毎日の摂取量を記録し、水分不足にならないよう心掛けています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、義歯洗浄剤による義歯洗浄も適宜行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗を少なくするよう、排泄間隔を掴むように努めています。	利用者の様子を見て素早く対応することで、現在オムツ使用者はなく、リハビリパンツ、布パンツで対応している。排便を記録し、ヨーグルトや食物繊維の粉末を摂取して出来るだけトイレでの自然排泄に努めている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に乳製品や食物繊維・オリゴ糖を取り入れ、体操や運動を取り入れています。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者の希望に沿ったタイミングで入浴出来るように、支援させて頂くよう、努めています。	隔日に入浴する方が多いが、希望があれば毎日でも入浴でき、9時から18時まで対応している。浴室が広く、浴槽が大きいので、職員の意見で浴槽内に頑丈な木製の腰掛けを設置し、安全にゆっくり入浴できるよう配慮している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後はそれぞれの過ごし方をされ、ご自分のタイミングで休まれています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	きちんと服薬していただけるよう、見守り・飲み込みまで確認するようにしています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれご自分のペースで過ごされていますが、余暇の過ごし方、家事作業、散歩など適宜取り入れ、提供させて頂こうと考えています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り協力し、ご本人が希望する外出が出来るように心掛けています。	外食、花見、観劇、祭りなど利用者が希望する外出支援の実現に努めている。手押し車や車椅子を使って全員で出かけるように支援している。施設内の花壇や菜園には気軽に出入り、手入れに来られるボランティアとは馴染みになっている。一人で散歩する利用者もおられる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は法人事務所で管理しており、必要時の出し入れについては、明細をご家族様にお伝えするようにしています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に出来ます。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、出掛けた時の様子が見えるような壁面の作成や、四季折々の壁面を貼らせていただいています。花壇の花を机の上に飾ったり、穏やかな毎日を送っていただけるような空間であれば良いな、と考えています。	食堂、居間はとても広く、テーブルやソファは見守りやすく配置されている。大きな天窓や吹き抜けの坪庭があり、何代目かのウサギが飼われている。花の貼り絵や行事の写真、利用者の習字作品などが壁面を飾っている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者の希望も取り入れつつ、食卓の席を変更したり、リビングにソファを置き、ゆったりと過ごしていただけるようにしています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様にもご協力いただいています。	居室には手作りの名札が掛けられ、クローゼット、洗面台、トイレ、エアコンが設置され、掃き出し窓からは庭の花々や田植えの済んだ水田が見える。使い慣れたベッド、布団、たんす、椅子などを持ち込み、家族や愛犬の写真、誕生祝の色紙、ぬいぐるみなどを飾り、思い思いの部屋作りがされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全にご自分で出来ることは行っていただけるような支援をしたいと考えています。		